交通政策審議会　港湾分科会
平成22年度第1回　事業評価部会
資料3－4－1

境港　外港中野地区
国際物流ターミナル整備事業

説明資料

国土交通省 港湾局

平成22年8月

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

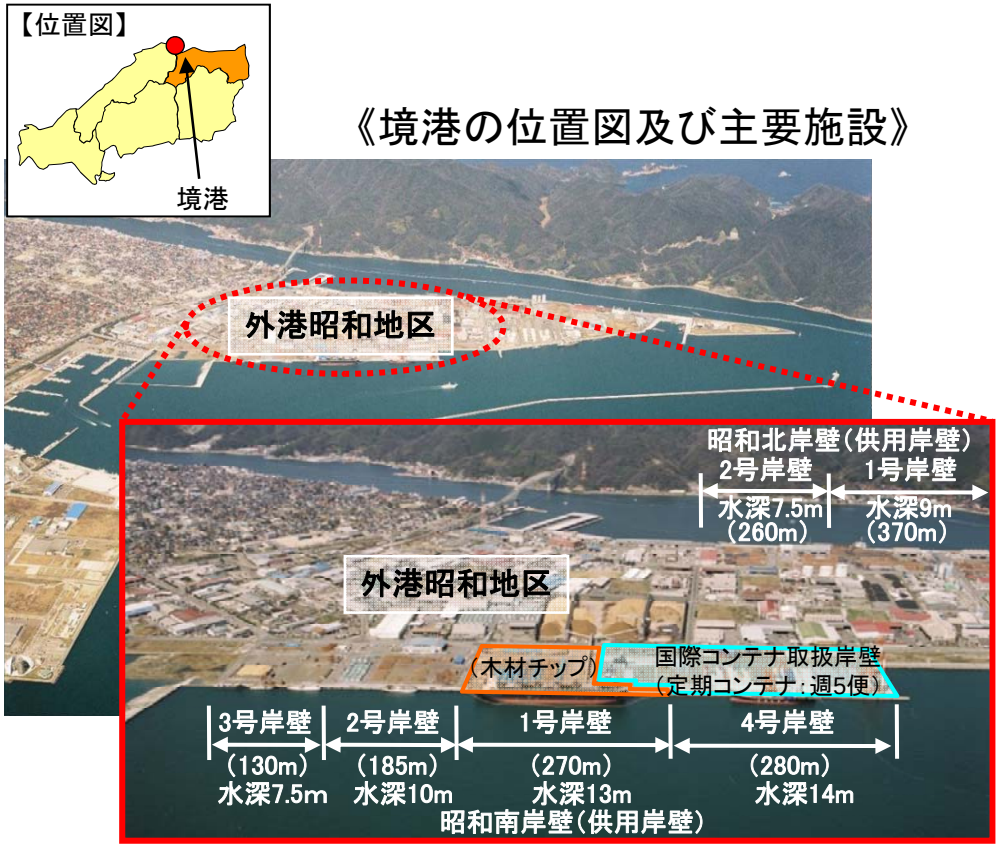
境港の概要

国土交通省

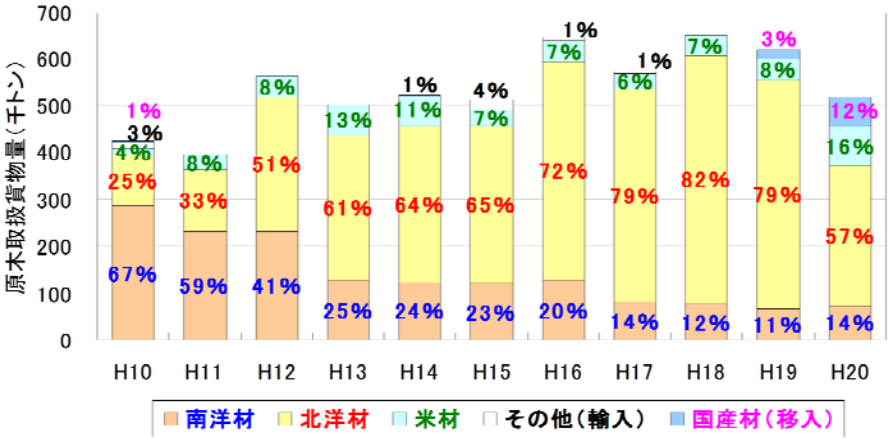
境港は、鳥取県境港市と島根県松江市に跨る重要港湾であり、国内有数の木材取扱拠点（輸入原木取扱量全国第2位：H20実績）となっている。境港で取り扱われる原木は背後圏の立地企業にて住宅建材に多用される構造用合板に加工され、主として関西をはじめとした西日本エリアに供給されている。

企業はこれまでロシア産の北洋材を主に利用していたが、原料調達不安（ロシアの不安定な関税政策および中長期的な経済発展に伴う調達価格の上昇等）を敬遠し、安定的な工場操業を確保する必要性から将来的にも安定的調達が可能な米材等への転換方針を打ち出し、切り替えを進めている。

《境港の位置図及び主要施設》



《境港における原木取扱貨物量》



※H20の原木取扱量はH19の建築基準法改正（建築確認の強化）並びにH20のリーマンショックに伴う住宅着工減少の影響がでている。

事業の概要

国土交通省

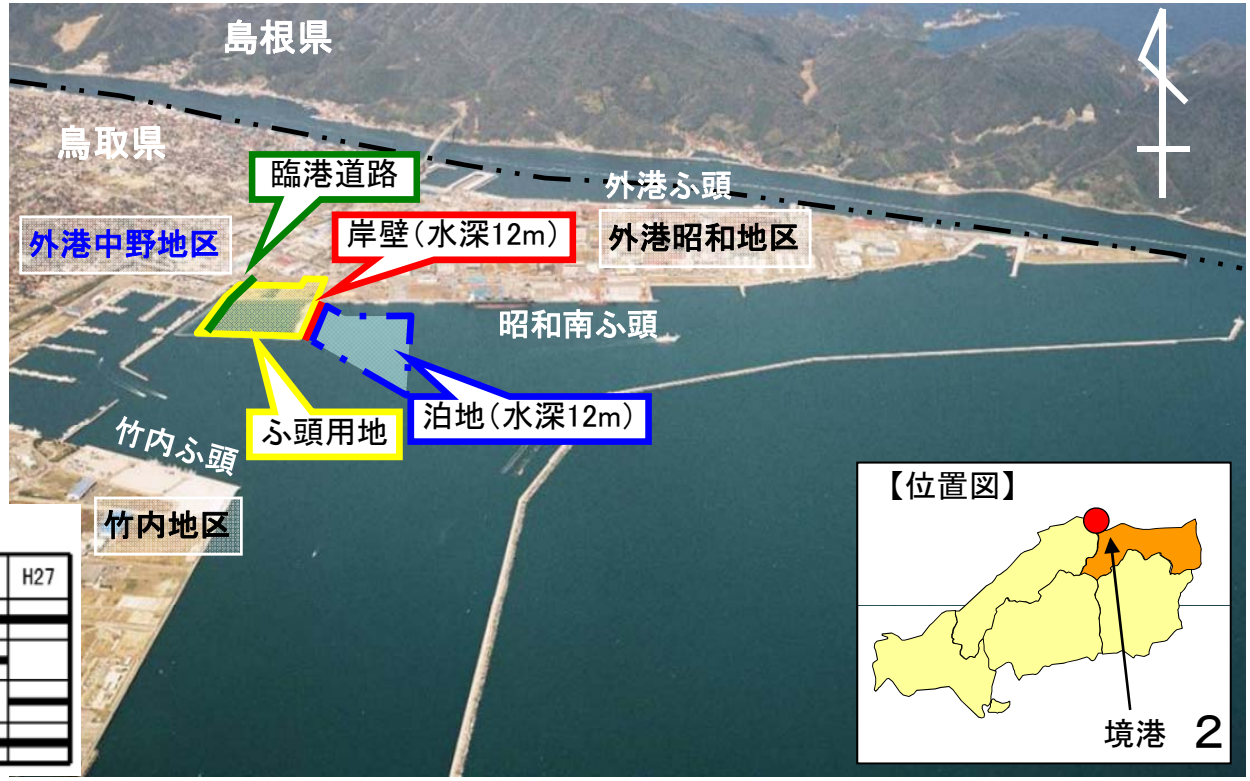
【事業の目的】

境港において、取扱いが増加している米材等を輸送する大型木材輸送船が着岸できる岸壁及び原木保管場所（野積場）の不足で生じている、喫水調整や他港からの二次輸送、ふ頭間の二次運搬など非効率な輸送形態を解消するため、水深12mを有する国際物流ターミナルを整備し、外貿貨物需要の増加及び船舶の大型化に対応することで輸送効率化を図る。

【対象事業】

整備施設　：岸壁（水深12m）240m×1バース、泊地（水深12m）、臨港道路、ふ頭用地
事 業 費　：約90億円

《位置図》



《事業スケジュール》

事業区分	地区名	施設名	H23	H24	H25	H26	H27
直轄事業	外港中野	岸壁（水深12m）	━	━	━	━	━
		泊地（水深12m）			━	━	
補助事業		臨港道路					━
起債事業		ふ頭用地				━	━

事業の必要性

国土交通省

【①大型船に対応する岸壁不足の解消】

・境港では企業の原料調達先の転換に伴い、大型木材輸送船（3万DWT級）の入港が急増中。
（7隻：H20→18隻：H21）

・大型船対応岸壁の不足により、喫水調整、沖待ち等非効率な輸送実態。

・今後、米材、国産材への切替えや、将来のリフォーム需要等を見込んだ企業の増産により大型木材輸送船が更に増加する見込。
（大型船対象貨物量5万トン：H19→45万トン：H28）

・大型船の増加により、他の貨物の取扱いにも影響が懸念。

よって、大型船対応の岸壁を整備し、施設不足による非効率な輸送解消が急務。

《大型船利用状況例（喫水調整）》

昭和南2号岸壁（水深10m）着岸船 船名：GLOBAL NEXTAGE（3万DWT級） 積荷：米材	昭和南1号岸壁（水深13m）着岸船 船名：GLOBAL MAPLE（4万DWT級） 積荷：木材チップ

※昭和南2号岸壁は本来、大型木材輸送船に対応しておらず、喫水調整して緊急避難的に利用。

《大型船の沖待ち状況例》

※大型木材輸送船が昭和南1号岸壁に着岸した際の木材チップ船の沖待ち事例。

事業の必要性

国土交通省

【②大型船に対応する保管場所（野積場）不足の解消】

・境港の既存岸壁背後の原木野積場が狭隘で大量の原木の荷役に対応困難。

・このため他地区野積場への二次運搬（原木の横持ち陸送等）が発生。

よって、岸壁背後に必要な野積場を確保し、野積場不足による非効率な輸送解消が急務。

《原木二次運搬状況例》

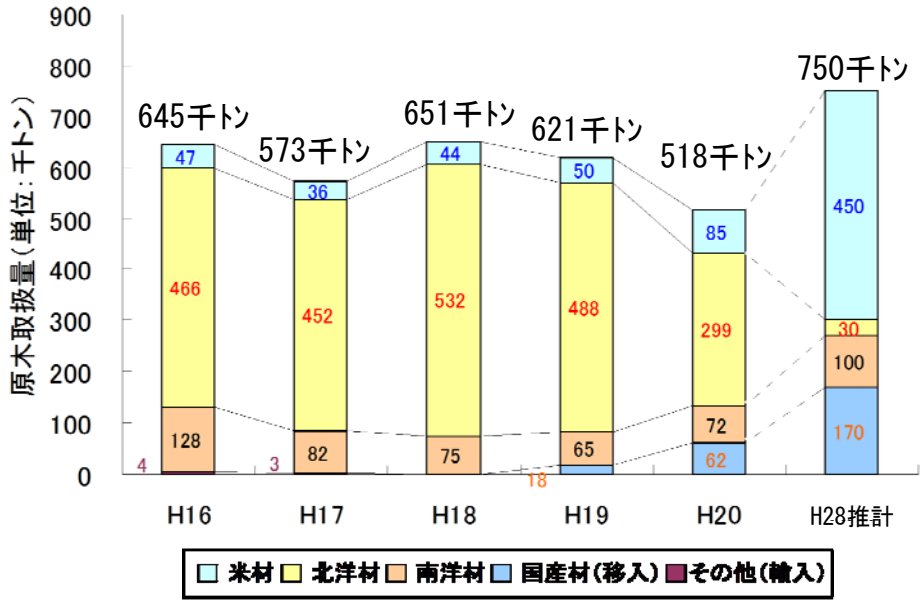
※外港昭和南地区野積場→外港昭和北地区野積場への運搬状況。

需要の推計

国土交通省

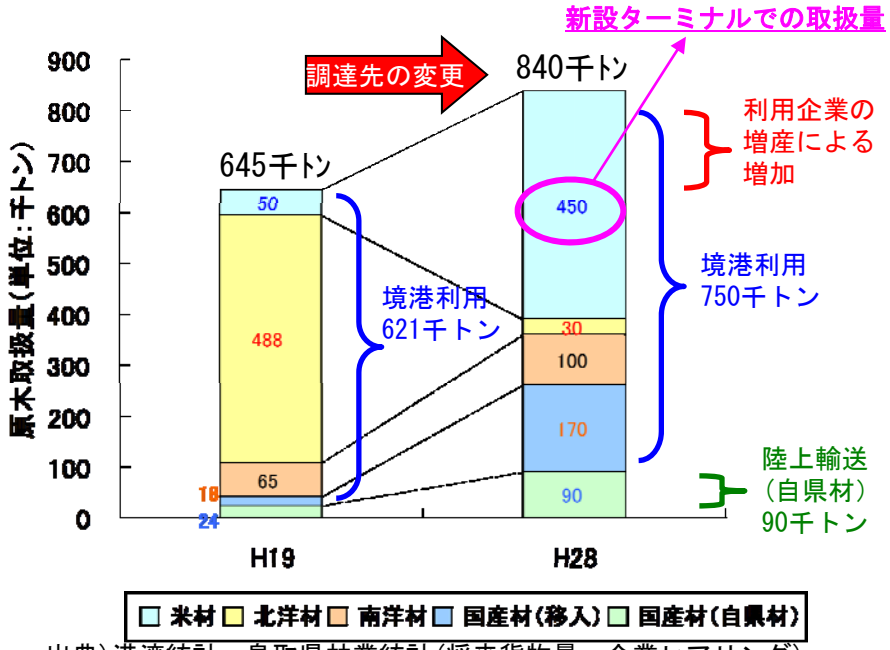
・原木取扱量は、概ね横ばいで推移。
・利用企業のヒアリングにおいて、米材等への切替やリフォーム需要等のため、増加の見通し。
・そのため、ヒアリングで得られた値を積み上げ、将来推計値として設定。

境港原木貨物量の推移



※H20の原木取扱量はH19の建築基準法改正（建築確認の強化）並びにH20のリーマンショックに伴う住宅着工減少の影響で減少。

将来推計値の設定



出典）港湾統計、鳥取県林業統計（将来貨物量：企業ヒアリング）

※H20の原木取扱量は左記要因により異常値と判断し、H19実績を基準として比較している。

費用便益分析

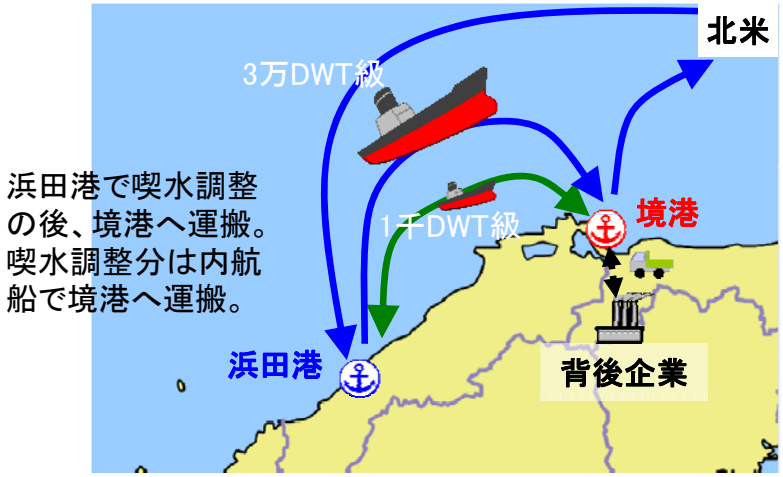
国土交通省

【便益計算】　便益（B）＝①＋②＝　232億円（現在価値化後）

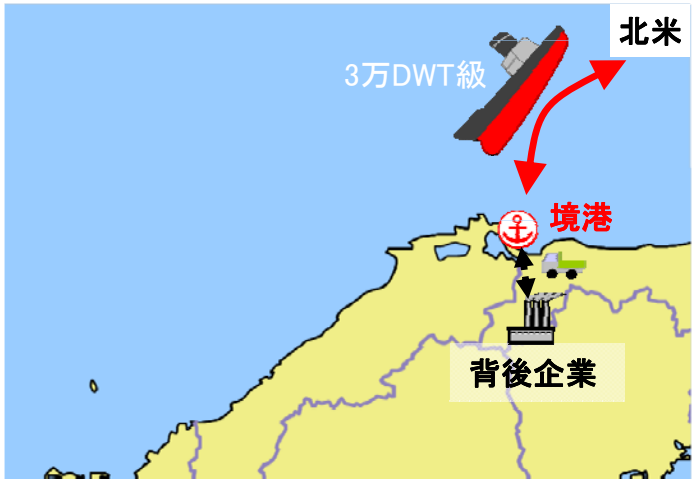
①輸送コストの削減　231.3億円（現在価値化後）

岸壁の整備により、岸壁不足による喫水調整や他港からの二次輸送による海上輸送費用の削減分を便益として計上する。

《 Without時 》



《 With時 》



②残存価値　0.7億円（現在価値化後）

【費用計算】　費用（C）＝事業費＋管理運営費＝　77億円（現在価値化後）

【費用便益分析結果】　費用便益比（B/C）＝　232／77　＝　3.0

貨幣換算が困難な効果

【①非効率な二次運搬の解消】

原木を保管する野積場の不足が解消され、他地区の野積場への二次運搬が解消される。

【②地域産業の安定・発展】

低廉な原材料の調達が可能となり、地域産業の競争力強化と地域産業の発展が図られる。

【③岸壁利用の効率化】

既存岸壁の貨物輻輳が緩和され、境港全体での岸壁利用の効率化が期待される。

【④排出ガスの減少】

船舶の大型化により、船舶からのCO_2、NO_Xの排出量が軽減される。

港湾管理者からの意見

国土交通省

【境港港湾管理者（境港管理組合）からの意見】

貴職におかれましては、日頃から境港の整備、利用促進についてご理解とご協力を頂きありがとうございます。

さて、重要港湾「境港」は、日本・韓国・ロシアを結ぶ日本唯一の国際定期貨客船が運航し、また、原木の輸入量は平成19年実績で日本海側第1位、地域の合板及び製紙生産量は国内シェアの10パーセントを占めるなど、日本海側の拠点港として極めて重要な役割を担っております。また、新たな企業の立地や、韓国・ロシアとの環日本海貿易ネットワークの強化により、「境港」の拠点性が一層高まっているところです。

しかしながら、原木輸入の増大や長距離化による船舶の大型化に伴い、喫水調整や沖待ち、荷捌き地不足による2次輸送が発生し、港湾利用者から新たな岸壁整備が強く求められています。

これら喫緊の課題に対応するため、境港外港中野地区多目的国際ターミナルの平成23年度新規事業化が必要不可欠であり、平成22年8月10日付国港計第26号で照会のあったこのことについては、異存ありません。